

武将像（伝島津忠久画像）一幅

【所在地】鹿児島市吉野町 9698 - 1 尚古集成館

【種別】県指定有形文化財（絵画）

【指定年月日】昭和 54 年 3 月 14 日



長く京都の高山寺に伝えられていた大和絵肖像画で、像主は島津家の祖忠久（1179 ? ~ 1227 年）と伝えられている。絹本著色、画面の大きさは縦 87.4cm、横 26.8cm、制作年代は鎌倉時代末から室町時代初期と考えられている。狩衣を着用した武士の頭上には旭日が描かれ、右上には「高山寺」の朱文方印が押されている。画面左下には「遺愚影守護北闕（愚影を遺し、北闕を守護す）」と墨書があり、この文字も忠久自筆という。烏帽子などに補筆が認められるものの、大和絵の持つ優雅さと、鎌倉時代に流行した写実的表現がよく残された優品である。また、外題には「島津忠久朝臣」「高山寺」とあるが、「島津」は後世の補筆である。

付属する松方正義の『忠久公画像記』によれば、元治元（1864）年上洛した島津久光が、近衛忠熙の邸ではじめてこの画像を実見し、その子忠義が本作品の入手を松方に依頼、松方が高山寺と交渉し、明治 31（1898）年ようやく島津家に譲られたという。

像主といわれる忠久は、文治元（1185）年源頼朝から島津荘地頭職に補任され、のちに薩摩・大隅・日向三ヶ国の守護職も兼務し、島津氏の南九州支配の基礎を築いた人物である。